

2022年1月13日

前田建設工業株式会社
代表取締役社長 前田 操治 様

日本野鳥の会京都支部
支部長 船瀬 茂信
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 50
アサダ観光ビル 2階 CD室

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23
丸和ビル

「(仮称)丹後半島第一風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」および 「(仮称)丹後半島第二風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」に対する意見書

この度、貴社が作成された「(仮称)丹後半島第一風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」および「(仮称)丹後半島第二風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」(以下、配慮書という)について、以下の1~5に述べる理由に基づき、鳥類保全の観点から、本事業の計画は中止するべきであると考えます。

本事業計画を中止とすべき理由

1. 鳥類の生息地および生物多様性の消失

事業実施想定区域(以下、計画地という)は、生物多様性保全の鍵であるKBA(Key Biodiversity Area)の「丹後半島」に位置しています。また、第一風力発電事業の計画地の一部は京都府によって「弥栄町スイス村鳥獣保護区」に指定されています。こうした地域で風力発電施設(以下、風車という)を建設すれば、工事や機材運搬のための車両による騒音や作業者の通行などによって環境が攪乱され、野生鳥獣の生息地放棄が生じることで、生物多様性が損なわれる可能性があります。また、KBAの選定対象種であるアベサンショウウオは、環境省レッドリスト絶滅危惧IA類(CR)であり、種の保存法の国内希少野生動植物種でもあります。風車建設や運搬路の整備に伴う土砂流出による水系への濁りの影響が懸念されます。さらに計画地の隣接地で京都府が太鼓山風力発電所を運用していた当時の調査では、森林性鳥類の出現種数・出現個体数は風車との距離が近いほど減少する傾向が確認されています。配慮書に記載されているとおり、計画地域では186種の鳥類が記録されていますが、本事業(第一および第二の合計で27基・最大出力116,100kW)は、京都府による太鼓山風力発電所(3基・最大出力2,250kW)に比べて、風車の基数だけでも9倍と大規模であり、その建設と稼働によって鳥類の生息地の消失と放棄を引き起こし、その結果、計画地およびその周辺地域の生物多様性が大きく損なわれる可能性があります。

2. 希少猛禽類への影響

配慮書にも記載されているとおり、計画地周辺にはノスリが生息しており、ハチクマの春季の渡り経路にもなっています。また、環境省レッドリスト絶滅危惧IB類(EN)のクマタカの生息も確認されており、先述の太鼓山風力発電所における調査では2組のクマタカのペアが確認され、うち1組では巣立ち後の幼鳥が観察されています。さらに、ノスリとクマタカが風車から最短で50m付近まで接近したことも観察されています。

京都府改訂版レッドリスト2021では、ハチクマおよびクマタカは絶滅危惧種に、ノスリは準絶滅危惧種に指定されています。こうした希少猛禽類が生息・飛来する地域で大規模な風車群が稼働すれば、バードストライクによる被害が発生する可能性があります。また、ローターの回転による騒音やシャドーフリッカーなどが、希少猛禽類をはじめとする鳥類に大きな影響を継続して与えることが考えられます。さらに、建設される27基もの風車が鳥類の飛行の障壁となり、飛行経路を変更することによって生存率の低下につながる可能性もあります。

3. コウノトリのバードストライク

計画地の南西に位置する兵庫県豊岡市には、国の特別天然記念物・コウノトリの保護施設「兵庫県立コウノトリの郷公園」があります。その施設と計画地の間の兵庫県内には数多くのコウノトリ繁殖用の人工巣塔が建てられ、京丹後市内にも 2 基の人工巣塔が建設されています。また、計画地の南に位置する京都府与謝野町でも複数羽のコウノトリが毎年のように確認されており、去年は舞鶴市由良川河口付近の鉄塔でもコウノトリが繁殖行動を示しました。丹後地方では現在、確実にコウノトリが増加傾向にあります。これらのコウノトリが採餌のために繁殖地周辺を飛翔したり、前記の保護施設から放鳥されて各地へ移動する際に、風力発電のブレードに衝突する危険性があると考えられます。

4. ハクチョウ類やオオミズナギドリバードストライク

今冬、コハクチョウ 10 羽が久美浜湾に飛来したように、計画地周辺はハクチョウ類の繁殖地と島根県から鳥取県にある越冬地を結ぶ渡り経路になっています。コハクチョウは京都府では減少傾向にあることから、京都府改訂版レッドリスト 2021 では絶滅危惧種にランクアップされています。

また、オオミズナギドリは日本近海の一部の離島でのみ繁殖する海鳥で、舞鶴市沖の冠島は数少ない繁殖地の一つとなっていることから、オオミズナギドリは「京都府の鳥」に、冠島は「国の天然記念物」に指定されています。冠島を巣立った幼鳥は、これまでの落鳥記録から丹後半島を含む内陸部を渡る個体が少なからずあることが分かっています。内陸へ移動した場合、これらの鳥が風車に衝突する危険性があります。また、夜間の悪天候時には、灯台や夜間照明器具等に誘引されて衝突事故を起こす事例が多く知られていることから、風車に夜間衝突防止の照明を設置した場合、かえって誘引と衝突を誘発してしまう恐れもあります。風車の建設によって、これらのハクチョウ類やオオミズナギドリがバードストライクの被害に遭うことが懸念されます。

5. ブッポウソウの繁殖阻害

日本野鳥の会京都支部では、計画地に隣接する地域において数年前からブッポウソウの生息と繁殖を確認し、現在も継続的に観察・調査を実施しています。ブッポウソウは環境省が絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定しており、京都府でも京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例によって、指定希少野生生物に指定されています。また、京都府改訂版レッドリスト 2021 でも絶滅寸前種に指定しており、京都府レッドデータブック 2015 では「府内では夏鳥として尾越や芦生などへ渡来して繁殖していた。1980 年代に営巣情報が少なくなり、近年の営巣情報はない。(中略) 現在ではときどき渡来例はあるものの、確実な営巣情報は途絶えている」と記載されています。

本事業による長期間の工事やその後の稼働によって、希少な夏鳥であるブッポウソウの繁殖が阻害され、京都府における貴重な生息地が放棄される懸念があります。

以上

<参考文献>

- ・「丹後半島での調査からみえてきたこと 風力発電が特にクマタカ、森林性鳥類に与え得る影響」
中津 弘
https://www.wbsj.org/nature/hogo/others/fuuryoku/shiryo100927_06.pdf
- ・「風力発電が鳥類に与える影響の国内事例」浦 達也 (Strix Vol. 31, pp. 3-30, 2015)
https://www.wbsj.org/nature/public/strix/31/strix31_03.pdf
- ・「風力発電が鳥類に及ぼす影響」風間 健太郎
http://www.yamashina.or.jp/hp/yomimono/windpower_and_birds.html
- ・「近畿地方における最近 10 ヶ年のオオミズナギドリの迷行落下」吉田 直敏
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjo1915/22/93-94/22_93-94_60/_pdf
- ・京都府レッドデータブック 2015 ブッポウソウ
<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/bird0008.html>
- ・京都府改訂版レッドリスト 2021
http://www.pref.kyoto.jp/kankyo_red/news/documents/kyoto_redlist2021.pdf
- ・環境省レッドリスト 2020
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>